

## チーム学校としての人材育成の取組 ～組織的に取り組む包括的な学校改善を目指して～

北見市立美山小学校  
学 級 数 21  
(校長 伊井 俊明)

### I 実践テーマの趣旨

本校は、平成 26 年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の近隣実践校の指定を受け、実践指定校の実践から学び、自校の課題を明らかにすること、そして、自校の実態に照らした具体的な取組を推進することを取組の柱に据え、組織的に取り組む学校改善を推進してきた。平成 30 年度からは実践指定校となり、「学校マネジメント」「人材育成」「教育課程・指導方法」「地域・家庭との連携」を教育目標の実現にむけた学校経営の軸に位置づけ取組を推し進めている。

本校は、初任段階教員受け入れを積極的に行っている。若手育成のためには、組織的・意図的に人材を育成することが求められる。そこで本校は、学習における数値や目指す児童像を具体的に表記することで、児童の育成に向けベクトルを同じ方向にするための具体物を作成している。それが、グランドデザインの重点「当たり前のこと」を「当たり前ができる」子供の育成である。そのために「共通」「一貫」「継続」「徹底」をキーワードとし、「チーム美山小学校」で「当たり前のことを当たり前ができる子供」を育むことを目指す。重点を達成するため、具体的に 11 項目を示した。新型

コロナウイルス感染症から臨時休業や全国学力学習状況調査が全国と比較できないことから、今年度は「①」「③」「④」「⑤」を経営の重点とし①と③と④では、チャレンジテストの全道平均を越えること、⑤は本校の研究主題である「自分の思いや考えを豊かに表現する子の育成」～国語科における「書くこと」の学習を通して～に向けた取組であることを、教職員と再確認した。

また、本校における学校経営や教育活動については、学校便りや美山小学校ホームページにおいて家庭・地域にも発信するなど、教育課程のビジョンを内外に示し、チーム美山として「共通」「一貫」「徹底」した学習指導の継続をより一層推進すべく取り組んでいる。

### II 学校力向上に関する総合実践事業の推進（4 つの重点）

- 1 学校マネジメント
- 2 チーム美山小学校の人材育成
- 3 教育課程指導方法等
- 4 地域・家庭との連携



**令和2年度（2020年度） 北見市立美山小学校 グランドデザイン**

**美山小学校の教育目標**

①創り出す子 <small>向上心にあふれ、自ら正しく判断する子</small>	②思いやりのある子 <small>みんなで協力し、他の人に親切に接する子ども</small>	③やりとげる子 <small>動物を愛び、忍耐強く最後までやり遂げる子ども</small>	④たぐましい子 <small>健康に気をつけ、強い体力を持つ子ども</small>
---	---	--	--

**目指す学校像**

創り合う学校 <small>学習指導 健康 安全教育 教育課程 環境教育 食育</small>	響き合う学校 <small>特別支援教育 道徳教育 生徒指導 特別活動 学級経営</small>	磨き合う学校 <small>研修 情報教育(ICT)</small>	結び合う学校 <small>キャリア教育 保護者・地域との連携</small>
--	---	---------------------------------------	--

**【令和2年度 重点教育目標】**

**当たり前のことを、当たり前ができる子供の育成**  
～「共通」「一貫」「継続」「徹底」取組～

- ① その学年で習う漢字を8割5分以上読むことができる。（「読み先器」「情報を多く得られる」）
- ② その学年で習う漢字を8割以上書くことができる。（漢字を使用することで意味が分かる）
- ③ 教科書をスラスラと読むことができる。（「毎読の重視」「読むことができれば大体は分かる」）
- ④ 基本的な四則計算（加減乗除混合を含む）が8割以上できる。（計算力は基礎の基礎）
- ⑤ 主語と述語の整合がとれた文を書くことができる。（「相手に伝える」ことの基本）
- ⑥ 来校者に対してを含む「挨拶」や「返事」「履き物・椅子を揃える」ができる。（躰の基礎基本）
- ⑦ 教室や廊下・階段、流し等にごみが落ちていない（拾う）。（きれいな学校の第一歩）
- ⑧ 廊下や階段は走らずに歩く。玄関の戸は閉める。（落ち着きの状態が分かる。安全確保の徹底）
- ⑨ 靴箱・トイレをきれいに使うことができる。（落ち着きの状態が分かる）
- ⑩ どの雑巾や掃除用具も、いつもきれいに整頓されている。（指導しなければ徹底できない事務）

**【令和2年度 学校全体で意識して取り組んでいくこと】**

- 1 子供たちに確かな生きる力（学力、体力、生きていく上で必要な力）をはぐくむこと
- 2 子供たちの自尊感情や自己有用感を高め、互いを認め思いやることで、「学校が楽しい！学校が大好き！」と言える子供たちを育てること
- 3 保護者や地域に積極的に情報を発信するとともに、声を大切にしていくこと
- 4 「チーム美山小」として、チームワークを大切にしていくこと

### Ⅲ 学校マネジメント

本校の重点目標は「当たり前のことを、当たり前前にできる子供の育成」である。4月当初の職員会議の中で校長が提示し、学校の教育目標と今年の重点目標を全職員が言える学校を目指している。また、「当たり前のことを、当たり前前にできる」ことを具体的に示すため、何が出来るようになればよいかを11項目提示し、1年間を通して子供を育成するよう共有している。

また、学校評価の活用では「オールオホーツクで学力向上を！」との連携を図り、4月の職員会議で年間の見通しを全職員にもたせるために、学校評価計画一覧表を作成している。年間2サイクルを確実に回すためにも全職員の共通理解を図っている。令和2年度の学校評価は、教職員、保護者のアンケート調査をWebでの入力方式とした。マチコミメールで学校評価のアドレスを流しパソコンからでも携帯電話からでも入力できるようにした。昨年保護者からの回収率は60%未満だったのに対しWebでのアンケート回収率は80%を越えた。また、Webのアンケートは、自動集計されるため、担任が回収する手間や計算する手間も省くことができた。働き方改革の視点からも効果的であったと考える。

集計した結果は、80%以下を取組に課題の見られる点として位置付けた。その課題を見られる点に関係する校務分掌に、「方策」と「目標」を検討させ、全職員で共有している。各分掌、各教職員が「方策」「目標」検討することで、「経営参画意識」を持たせることをねらいとしている。この目標は、後期への目標とし、全職員で取り組む。また、学校評価の結果、分析、方策、目標については、学校だよりや美山小学校のホームページに記載し、保護者にも協力していただけるように情報を発信している。

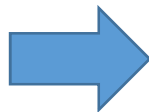
ホームページ（ブログ）は、1日平均250回以上の閲覧がある。本校の家庭数は341戸であるので、7割以上の保護者がみていることになる。ホームページの情報発信は効果が絶大である。

### Ⅳ 人材育成

本事業では、初任段階の積極的・継続的な配置により、毎年2名ないし3名の初任段階教員が配置され、今年度は全体で9名いる。そのため、若手人材育成に向け、学校が一体となって進める必要がある。そこで本校は、5つの指導力の育成を設定し、その育成のための手立てとして以下の6点を挙げた。

#### 【5つの指導力のバランスのとれた育成】

- (1) 教科指導力
- (2) 生徒指導力
- (3) 学級経営力
- (4) 保護者や地域との連携力
- (5) チーム貢献力



#### 【育成のための手立て】

- ① 学年・全体研修の充実
- ② 日常の授業実践の積み重ねと授業公開
- ③ メンターを活用したOJT
- ④ 学校全体の共通の取組
- ⑤ 管理職による指導・助言
- ⑥ 自ら学ぶ若手教員集団の育成

**令和2年度の重点「当たり前前」の事を「当たり前」にできる子供の育成**

「当たり前前」とは、社会に出て生きていくための基礎となることであり、次のように呼べる。

①その学年で習う漢字を8割以上読めることができる。〔読み次第〕「情報を多く得られる」  
 ②その学年で習う漢字を8割以上書くことができる。〔漢字を使用することで意味が分かる〕  
 ③教科書を読むと読むと読める。〔読書の習慣〕「読むことができれば天体は分かる」  
 ④基本的な四則計算（四則乗除混合を含む）が算術以上できる。〔計算力が基礎の基礎〕  
 ⑤正語と起語の割合がとれた文を書くことができる。〔相手に伝える〕ことの基本  
 ⑥全校共通で取り組む学習環境が確立に身についている。〔学習を高める環境づくり〕  
 ⑦「挨拶」や「意察」「働き物」「親子を推える」ができる。〔顔の基礎基本〕  
 ⑧教室や廊下・階段・道しるべにゴミが落ちていない（捨てる）。〔きれいな学校の第一歩〕  
 ⑨廊下や階段は走らずに歩く。玄関の扉は閉める。〔落ち書きの状態が分かる。安全確保の機能〕  
 ⑩履物・トイレをきれいに使うことができる。〔落ち書きの状態が分かる〕  
 ⑪どの建物が稼働する。いつもきれいに整備されている。〔侮辱しなければ駄目ではない事例〕

重点目標達成のための詳細11項目

学校評価の活用

## 1 学年・全体研修の充実

月	4月	5月
単元名・教材名	どうぞよろしく。	ぶんをつくらう。
単元を貫く言語活動	名前カードを使って友達と交流する。	主題と述語を覚悟して書く。
つげたい力 (指導事項)	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事項を異なり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

図 1



図 2

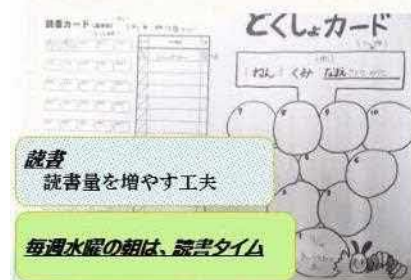


図 3

今年度の本校の研究主題は『自分の思いや考えを豊かに表現する子の育成』～国語科における書くことの学習を通して～である。研究内容では3つの柱として図1「授業改善」図2「書くことの環境」図3「読書タイム」としている。図1は、学年全体に「書くこと」について単元の洗い出しを行い、表にまとめたものである。図2は、書くことの環境設営のため、推敲マニュアルを提示したものである。図3の「読書タイム」は、児童の読書量を増やすため、毎週水曜日と金曜日の朝に設定している朝読書である。読書後には、読書カードに記録することで、書く力の向上をねらっている。これらのように具体的な柱立てをすることで初任段階教員は、研修にも意欲的に取り組むことができる。

## 2 日常の授業実践の積み重ねと授業公開

8月の北見市指導力向上研修会は新型コロナウイルス感染症により中止となったが、要請訪問や公開研究会では、初任段階教員が授業公開に向け、積極的に授業者として手を挙げた。それぞれの授業公開に向けて、各ブロックの初任段階教員が夏休み前から授業案を作成し、各ブロックのベテラン教員がアドバイスをするなど、チームとして若手教員をサポートしている。授業公開は、特別なごちそう授業ではなく、日常の授業実践（みそ汁ご飯授業）の積み重ねである。授業公開により、より多くの方からの指導をいただくことで、指導力の向上に繋がるものと考えている。

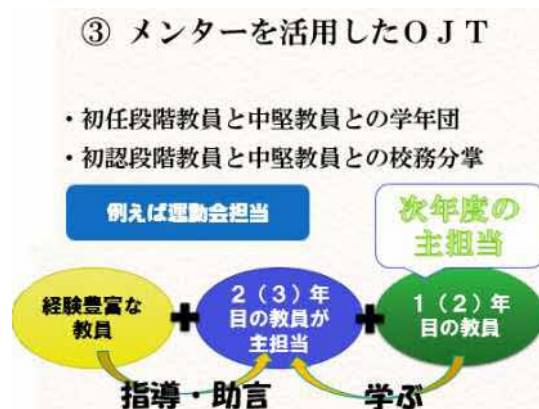
- ・ 8月 北見市指導力向上研修会
- ・ 8月27日 学校教育指導（要請訪問）Zoomによる授業
- ・ 11月27日 公開授業研（学校力の成果発信）

**外部の声を聴き、指導に生かす**

## 3 メンターを活用したOJT

美山小学校では若手教員の育成のために、メンターを活用したOJTができる体制を意図的・計画的に構築している。学年では、授業作りや生徒指導など、日常的にOJTが行われている。校務分掌では、長期的な考えに立ち、経験豊富な教員が指導・助言を常にできる体制を確立することにより、2年目、3年目の教員が、運動会等の大きな学校行事全体を動かせるようにする。

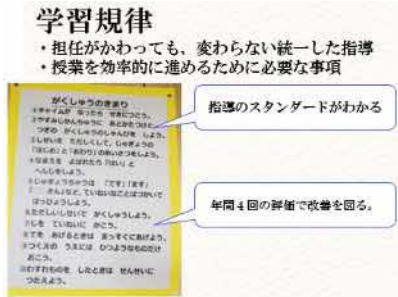
次に2年目、3年目の教員が初任段階1年目、2年目の教員を指導にすることで、若手育成+ミドルリーダー育成に繋がっていくような体制としている。



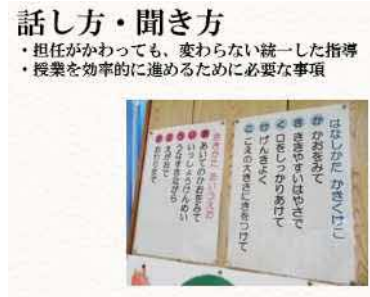
#### 4 学校全体の共通の取組

美山小学校全体の共通の取組目標は「担任がかわっても、変わらない統一した指導」「授業を効果的に進めるために必要な事項の明確化」「良い姿、できている姿を見える化」である。

具体的取組としては、①「学習規律」②「話し方聞き方」③「整理整頓」の徹底である。



【学習規律】



【話し方・聞き方】



【整理整頓】

また今年度、新たに作成したものが「美山小学校基本ガイド」である。いずれも統一した指導となるよう指導のスタンダードとして、教室に掲示をしている。更に保護者に向けても、「児童の取り組む姿」「良い姿勢」「できている姿」として学級通信等でも知らせている。また、保護者に対して「基本ガイド」により、指導のスタンダードを示すことで、学校だけではなく、保護者や地域をも巻き込み、徹底した指導を行うことができる。

これらを活用することで、教職員全体が共通認識に立ち、効果的、効率的に取組を推進している。



【美山小学校 基本ガイド】

#### 5 管理職による指導助言

若手教員に対する個別指導は日常的な授業参観を通じて行っている。しかし、より多くの若手教員に対し、一斉に効率的な研修ができないかと考えた。若手教員からの研修の要望もあり『百聞は一見にしかず』ということで、若手教員に主幹教諭と教頭が2回に分けてミニ研修を行った。

第1回目は、主幹教諭による黒板の使い方についての研修である。黒板を3つに分けて授業の「めあて」から「まとめ」までの流れを意識した板書の実演をした。

第2回目は教頭によるデジタル教科書の活用についての研修である。円の面積の考え方について今までは、教具等



【研修資料】

で教員が説明していたところ、デジタル教科書では、パソコンマウスのクリックで動画が進んでいき、面積の求め方が見てわかるというものである。教材研究の時間短縮ばかりでなく、児童の知識獲

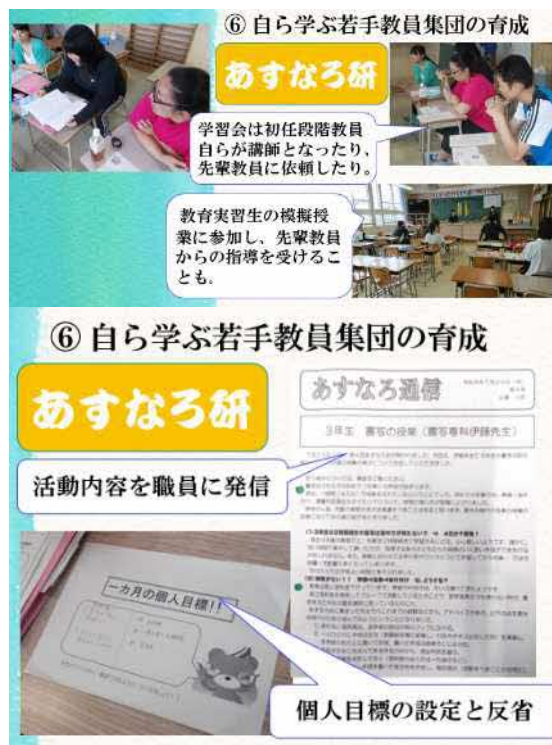
得の時間短縮に使い、その分話し合いの時間を多く設けることができることを指導した。若手教員の板書やICT機器活用の機会が増え、授業改善に向けての意識が変化したと感じた。

## 6 自ら学ぶ若手教員集団の育成

平成29年に若手教職員の中から自ら学ぶ若手の教職員集団である「あすなる研」を立ち上げた。「あすなる研」は先輩教員や初任段階教員自らが講師となったり、教育実習生の模擬授業に参加したりするなど、積極的に学ぶ初任段階教員の集団である。

学習会では、国語の音読や外国語のアクティビティ、音楽の合唱など指導技術から学級経営など幅広くテーマを設定し研修を行っている。また、初任段階教員の研修計画についても2年次、3年次、4年次の教員が計画作成にあたり、アドバイスをを行っている。1年次の教員は研修計画の作成を作るだけでも相当な労力が必要なため、それを知る仲間がいるだけで、心強いと感じるとともに、若手教員の横の繋がりになっている。

「助け合う若手教員集団」という意識が「自ら学ぶ若手教職員集団」となっている。



## V 教育課程指導方法等

本校の教育課程・指導方法の改善として、目指す到達数値目標（学習面）を立てている。

- ①その学年で習う漢字を8割5分以上読むことができる
- ②その学年で習う漢字を8割以上書くことができる
- ③教科書をスラスラと読むことができる
- ④基本的な四則計算を8割以上できる
- ⑤主語と述語の整合がとれた文を書くことができる
- ⑥全校共通で取り組む学習規律が身についている

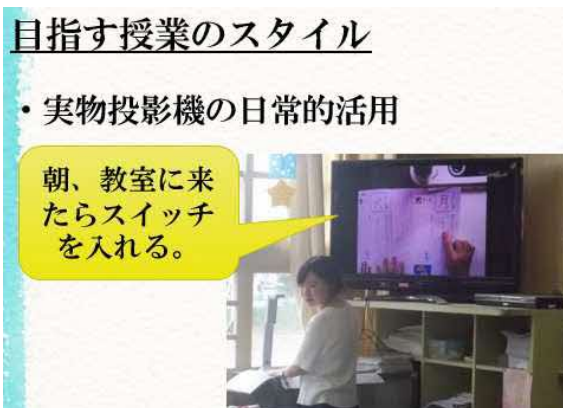
この6点は「美山小学校グランドデザイン」にも記載しており、教員はこれを日頃から意識して指導している。

また、本校の各教室には、「実物投影機」と「大型テレビ」を設置していて、実物投影機は、朝教室に担任が入ると、電源を入れることになっているため、日常活用するように取り組んでいるところである。

目指す授業のスタイルは、

- ・教えるべき事は徹底して教え、それを基に考えを広げていく「教えて考えさせる」授業
- ・リズムとテンポある授業
- ・シンプルな授業の流れを基本とした、言語活動を重視した授業

である。学習内容の確実な定着を図る教育課程・指導方法として取り組むとともに、特別な教育支援を必要とする児童生徒への指導・支援にも同様に取り組んでいる。



## VI 地域家庭との連携

本校では、児童が家庭学習に向き合う時間の確保と家庭に学習状況の「見える化」として宿題チェック表を配布し、教員が毎回チェックしたものを返却している。また前述したとおり、「美山小学校基本ガイド」を配布することで、学校と保護者が指導の方向性を共有している。

地域との連携では、夏休みや冬休みに学習サポートとして北見藤高校の生徒を招き、児童の学習へのサポートを毎年行っている。更に特色のある教育活動をして、右の図にあるように、外部との連携した取組を行っている。

特に⑦と⑨については、本校の保護者が立ち上げた活動となっており、1年を通して子供たちの教育活動に携わっている。

### 地域との連携 特色ある教育活動

- ①北見工業大学の学生によるクラブ活動への協力
- ②社会福祉施設訪問による総合的な学習活動
- ③地域の事業所訪問による、キャリア教育
- ④京セラと連携した理科授業
- ⑤農協と連携した作物栽培学習
- ⑥北中学校との交流学習
- ⑦読み聞かせの推進
- ⑧藤女子校生による学習ボランティア
- ⑨「美山おやじの会」による各種体験活動
- ⑩P T Aによる学芸会バサナーの実施

## VII 実践の成果と課題

### 1 実践の成果

#### ○ 実践の成果

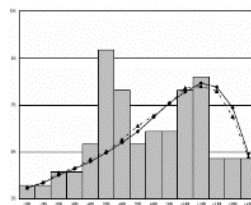
- ①教員 30 名中、約 3 分の 1 に当たる 9 名の初任段階教員がいる中、「チーム学校」で若手の育成に取り組んできた。ほっかいどうチャレンジテストでは、誤答や無答の問題を明らかにし、全道以上を目標に取り組んできた。その結果、今年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率については、昨年度よりも上回る結果となった。

- ②学習規律については、学校評価アンケートの中で、教員の「できている」という考えは 50%位であった。しかし学校教育指導において、学習規律について本校の実態を中心に学級の様子を参観された際、児童の机上の筆記用具等の置き方については、ほぼ徹底されているという評価であった。

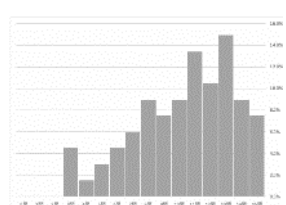
この児童の姿勢が学びに向かう意欲となり、学力向上となるという助言をいただいた。

- ③初任段階教員に主幹教諭や教頭がミニ研修を行うことにより、意識の変化が見られたのは非常に効果があったと感じる。教員も児童生徒と同様に、視覚に訴える実践的な研修が次に生かせるものであることと確信した。

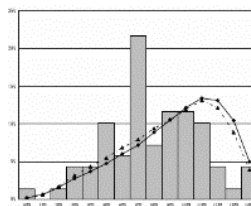
- ④令和 2 年度に行った教研式標準学力検査 NRT では、昨年度の実施結果よりも大幅に成績上昇した。国語では、「話す・聞く能力」の全国比は、+0.8 ポイントであり、全国比を超えた。「書く能力」は -2.2 ポイントであったが、日常からの取組の効果が少しずつ出てきた。今後も伸ばしていきたい。



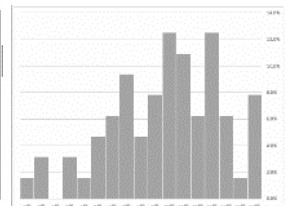
平成 31 年度 国語



令和 2 年度 国語



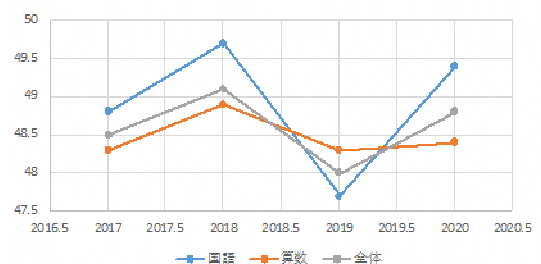
平成 31 年度 算数



令和 2 年度 算数



美山小学校標準学力検査NRT



● 実践の課題

「学校力向上に関する総合実践事業」指定校は、学校力を高める取組の充実を図ることと、授業公開を通じて取組の成果を発信することが求められている。今後、本校が発信していくうえで次の2点が課題として挙げられる。

①GIGA スクールに向けた ICT を活用した実践（オンライン授業等）

②異校種等の教員の乗り入れによる授業改善

Ⅷ 終わりに

今後学校は、若手教員を核として ICT を活用できる人材を育成することが求められる。そのためには、若手教員が ICT 活用技術を経験のある教員へ発信できる人材育成が不可欠である。このことで、新たな時代に柔軟に対応できる「学び続ける学校」を目指していく。